

第2回農林水産専門委員会での主な意見

（農業の担い手）

- ・計画を書くとなるとどうしてもこのようなきれいな書き方になるが、そもそも担い手がないという決定的な、話し合いでどうこうできないような状態まで来ているのではないか。「誰がやるか」というガイドラインを示さなければいけないのではないかと思う。

（法人の参入）

- ・将来的に見て株式会社等の法人の参入について、鶴岡市としてどのように準備しておくか考えておかなければいけないのではないか。トヨタのような巨大な資金力があるところとやっていこうと思うのであれば、施策が進められた時点で考えるのでは遅い。

（環境保全型農業）

- ・藤島庁舎に認定班があり、25年度で一般的な特別栽培の認証事業からは撤退するはずだが、それと「農産物認定事業の機能を最大限に活用し」というのは相反するのではないか。

（技術開発、研究）

- ・資金力のある企業は自分で事業化できるが、資金の無い人がアイデアを持っていく場所がないので、最初の入口のところで拾い上げて整理をする窓口のようなものがあればいいと思う。

（耕作放棄地）

- ・耕作放棄地が発生しているところはどちらかといえば中山間地であり、平坦部のたまたま耕作放棄しているところなら対応できるが、中山間地には果たして対応できるのか。
- ・「耕作放棄地対策」と「担い手の農地集積」は別ではないか。

（ユーザーとのマッチング）

- ・柿農家で古い木は作る人もおらずそのまま放置されて処分に困っている。そういうところでユーザーとマッチングする機会を作れないものか。

（畜産振興対策）

- ・鶴岡市は畜産が非常に弱い。経営規模の拡大とあるが、今の畜産農家は拡大というよりも肥育から繁殖への切り替えなど、そういった動きの方が強い。畜産を振興するにはスタンスが弱いのでは。

（農業体験）

- ・「体験プログラム」に関わる部分に農業体験のことをもう少し入れてもいいのではないかと。外部からだとは民家に泊まるという事もありかと思う。

（林業の担い手）

- ・森林所有者の担い手というのは農業などとは別個のものとして考えなければいけないのではないかと。現場とプランニングが乖離しているように思う。

（ペレットストーブ）

- ・木質ペレットストーブの利用者に助成を出すなど普及促進を図っていけば、森林資源循環システムの一つに十分加わるのではないかと。

（木材の価格）

- ・木材の買取価格があまりにも低すぎる。根本的な所で価格を上げていく、価値を高めていくにはどうするかということが問題になるのではないかと。

（乾燥センター）

- ・今までの木材は工業製品としてあまりに未完成な商品であったが、乾燥センターを通すことによって付加価値が高くなった。しかし十分利用されるような状態にはなっていないので、まだまだPRという面で追いついていない部分がある。

（地場産木材）

- ・地元産木材を使用したいと思っている大工や工務店は多くいるが、品質面や流通量などの関係でなかなか使ってもらえていない。
- ・地場産木材は流通量が少なく価格面での競争力では追いついていない。その部分を補うために様々な補助制度があるがどうしても使いづらい。もう少し使う側に立った仕組みづくりというのが必要なのではないかと。

（木質バイオマス発電）

- ・木質バイオマス発電は単に電気を取り出すだけの施設となっているが、熱源利用などももう少し考えられるのではないかと。
- ・今、収量で考えていくと、鶴岡市から出てくる量だけでは足りないのではないかと。それに対して県外業者の終末処分の意味合いも込めて、その部分も入ってくるのではないかと。

（コーディネーター）

・様々な補助制度が使う側になると非常に煩雑で使いづらいものになっている。コーディネーターからその辺のアドバイスもいただけたらうまくいくのではないかな。

（集約化、団地化）

・グローバルな基準の中でどう戦っていくかとなれば集約化、団地化しかない。
・集約化して、今まで価値がなくて捨ててきたものをバイオマスに利用するなど、そういった利用によって付加価値が付いて収益が上がることに期待している。

（森林資源の循環）

・現在 1 年間に木が増える量の 10%しか使っていない。成長量以上に使えばなくなるが、その以内であれば循環するわけなので、間伐、皆伐も入れつつ、若い木も植えながら、といったことを確実にできるような施策をお願いしたい。

（森林と海）

・海にとって森林は重要な役割を担っているなので、そこも盛り込んでほしい。

（内水面漁業）

・水産業について、海面しか内容が載ってないがなぜ内水面がないのか。

（放射線検査）

・現在放射線物質については、県の方で月 2 回、2 種類の検査をしている。そのことも盛り込んでほしい。

（水産物のブランド化）

・「庄内おぼこサワラ」について書いてあるが、冷水器を使用して活ガニ、活ズワイガニ、紅エビについてもいい評価を得ているので、この辺も盛り込んでほしい。

（全国豊かな海づくり大会）

・平成 28 年度に「全国豊かな海づくり大会」が開催されるが、この辺のところは計画に出さなくていいのかな。

（農業の価値）

・農業は経済効率が悪いイコール悪という考え方の中で、日本の経済成長路線

の中では本当に取り残されるべくして取り残されている。しかし、農業の本来の価値はそれだけではなく、日本の地理的な条件もあり、それを維持するには相応のコストがかかるということを国民全体が共有すべき。

- ・農山村や農業の多種多様な価値を認識してもらうために情報発信を地域からやるべき。
- ・本来住みやすいはずの農村地域から市の中心部にどんどん人が流れていき地域がますます疲弊していく。そうした負のスパイラルに巻き込まれて伝統や多種多様な価値観が失われていかないようにするにはどうしたらいいかをもっと前面に出さないといけないのではないか。

（食文化創造都市）

- ・食文化創造都市の中で農林水産分野はかなりのウェイトを占めていると思うが、この点は入れなくていいのか。
- ・食文化創造都市という文言は生産のところに入っていたほうがいいのではないか。

（将来のビジョン）

- ・大きな事業になると完成まで15年、25年くらいかかる。その場合、25年先のこの地域の姿を考慮せず、今の状況を前提として進めていくと、今から計画していくことが無駄になる可能性も十分有り得る。

（地産地消）

- ・地産地消のところで弱いところを救済するということが前面に出ているが、もう一面、強い意味、積極的な攻めの部分も入れてみたらどうか。（フードマイレージ、CO2削減など）
- ・学校給食における鶴岡産野菜の利用率50%、地元産魚介類の利用率30%以上を維持できるようお願いしたい。

（教育）

- ・市内の小学校の生徒が校外学習で市場や漁協の見学に来ることがあった。このような学習についても将来の就業者になる可能性のある子供たちなので取り入れてほしい。
- ・藤島地域から見ると田や畑は身近で受け入れやすい存在だが、海や林業といった資源も鶴岡市には豊富にあるということを小さいうちから経験できたらいいと思う。
- ・木育という幅が広いが、教育は継続することが必要となってくるので、お金が無くなったらそこまでしかやらないというようなことを軽々しく述べるべきではない。他人依存ではなく、鶴岡市としてきちんと進めるべき。

（交流促進）

- ・本市農林水産業の「応援団づくり」は、都会の子供や田舎暮らしを求める人々を呼んで交流を拡大させようという方策だが、そもそも農家・漁家・林家の子供たちが農林水産業に通じる気持ちを持つように足元から固めていく必要があるのではないか。

（販路拡大支援）

- ・販路拡大のために都内へ行くと、大変好評を得て売り上げも伸びていく感じだが、旅費が全て食ってしまうという状態である。これからもそういったことを持続するために何らかの方法で支援をお願いしたい。

（6次産業化）

- ・6次産業化に向けた身近な窓口を整備してほしい。庁舎の産業課に行けばいいのかもしれないが、どうも浸透していないところがある。

（鶴岡産ブランドの確立）

- ・現状山形県としてのつや姫となっていて、鶴岡産のつや姫という部分が埋没している印象を受けるので、そこを強くアピールしてほしい。

（景観）

- ・農業は営農としてだけでなく景観としても重要である。ゆるキャラでもなんでもいいが、そういった白鳥などの生き物が住めるところだということがイメージできるようなものが何か欲しい。

（研修会等）

- ・いろいろな支援事業や指導、教室などがあるが、なかなか人が集まらないのが現状だと思うので、過去の成功例、実践例等のPRをもう少し頑張してほしい。

（観光と文化）

- ・中山間地について、コストや所得だけでなく、観光や文化的な資産として持っていくようなスタンスはないか。

（学校跡地の利用）

- ・農林水産ではない分野で廃校になった学校の跡地利用があるが、環境資源として農業とのマッチングは考えられないか。